



# 動物という隣人

共感と宗教から考える動物倫理

鬼頭葉子「著」

我々は脆弱で依存的であるがゆえに動物という「隣人」と共に生きる存在なのだ

◆ A5判・400頁・定価5995円

2月24日発売

本書は、従来の理論に潜む人間中心主義を克服すべく、哲学とキリスト教神学から、共感とアガペーに基づいた新たな動物倫理を構想する。動物の権利は関係の権利であり、脆弱性が権利の源泉となる。脆弱性に伴う依存性ゆえにすべての生は連帯し、関係的存在となりうる。脆弱性はときに苦しみをもたらすが、その苦しみに対する共感が共同体における合意形成を促し、動物への配慮を権利化する。宗教は、動物を含むすべての生に対する脱人間中心主義的な視点を提供し、アガペーとケノーシスに基づく倫理的配慮の可能性をも示唆する。

著者：きとう・ようこ 東京大学文学部、京都大学大学院文学研究科で学ぶ。2010年博士号取得（文学、京都大学）。現在、同志社大学文学部哲学科准教授。専門は宗教哲学、キリスト教神学、倫理学。著書に『時間と空間の相克—後期ティリッヒ思想再考』（ナカニシヤ出版、2018年）、『技術の倫理—技術を通して社会がみえる』（ナカニシヤ出版、2018年）など。

## 【目次より】

### 第1章 動物倫理の思想史

- 第1節 哲学における動物の位置づけ
- 第2節 シンガー、レーガンの動物倫理とそれに対する批判
- 第3節 フェミニズムおよび徳倫理学に基づく動物倫理
- 第4節 キリスト教神学に基づく動物倫理

### 第2章 現代の哲学、倫理学における共感という感情

- 第1節 共感概念の思想史
- 第2節 シェーラーの共感概念と宗教哲学
- 第3節 ヌスバウムの同情概念
- 第4節 スロートの共感概念と社会正義
- 第5節 動物倫理に資する共感概念

### 第3章 日本における動物倫理の思想的可能性

- 第1節 日本文化における動物の地位
- 第2節 動物飼養と動物倫理
- 第3節 西谷啓治の宗教哲学と動物倫理

### 第4章 肉食と動物倫理——キリスト教神学からのアプローチ

- 第1節 食に関する神学と動物神学
- 第2節 キリスト教神学における憐れみと美德
- 第3節 食べることと美德

### 第5章 多様な動物の包摂——新たな動物倫理モデルの検討

- 第1節 動物権利論とケアに基づく動物倫理の課題
- 第2節 権利概念の再考
- 第3節 関係概念の再考
- 第4節 権利・共感・宗教モデルと動物への倫理的配慮の拡張

# エリックとマチルダ

ミーシャ・リヒター [作]

みつじまちこ [訳]

2月24日発売

◆ A4変型判・32頁・定価1980円



## 思いを伝える方法って何だろう？

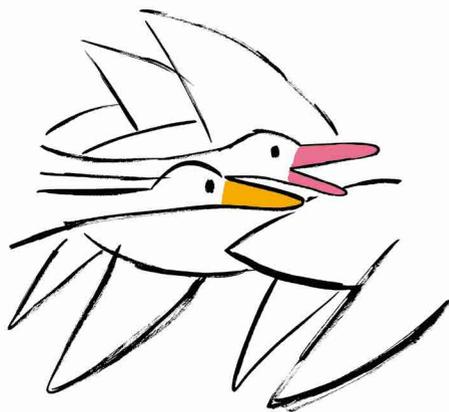
マチルダはかわいいユキガチョウの女の子。エリックは一目ぼれ。

なんとかマチルダの気を引こうと、後ろ向きで行進したり、逆立ちしてみたり、変な声で歌ってみたり、おどけた身振りをしてみたりしましたが、マチルダはぜんぜん振り向いてくれません。

すっかり落ち込んで悩むエリック。

そんな彼に森の賢者のフクロウが与えたアドバイスとは……

作者のミーシャ・リヒター (Mischa Richter) は、1910年、ウクライナのハルキウに生まれた。一家はロシア革命を逃れ、ミーシャが7歳の時にポーランドに、12歳の時にアメリカに渡る。イエール大学卒業後、主に雑誌『ニューヨーカー』に風刺漫画を連載し、数十年にわたって人気を博した。2001年没。



在日本韓国YMCA編

## 交差する。パレスチナ 新たな連帯のために

差別の複雑な実態を明らかにし、それへの抵抗にインスピレーションを与える「交差性」の概念を手がかりに、パレスチナに学び、パレスチナと共闘する。寄稿者＝ニタル・アブズルフ／金城美幸／北川真也／阿部小涼／保井啓志／中村一成／太田昌国／役重善洋／早尾貴紀。四六判・定価2640円

宮平望著

## 旧約聖書文学書 要約と概説

新しい旧約入門シリーズ、第3弾！文学書（ヨフ記、詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌）を章ごとに、ヘブライ語原典に基づいて要約し、メッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込む。旧約聖書の複雑多様な世界を読み進めるための好個の手引き書。A4判・予価2200円

ヴァルター・リュティ著／穴戸達訳

## コヘレトの言葉 講解説教

傑出したスイスの説教者が一九五五年から五二年にかけてベルンのミンスター教会で語った説教。リュティはコレトをニヒリストとしてではなく、神への信仰に立つて自らの人生を生きたことを勧める人物として読み解く。「伝道者」ロモ」を改訳・改題して、今再び送る。四六判・予価2500円

マシユー・ホケノス著／穂田信子訳

## マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「仮題」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第二次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキメニカルな場で活躍した激動の生涯。四六判・予価3500円

● 1月に出た本と雑誌

## 旧約聖書 物語られた歴史

B・W・アンダーソン著／高柳富夫訳



1957年の初版以来4度におよぶ改訂を重ね、今日にいたるまで半世紀以上も旧約入門・概説書として絶大な信頼を得ている名著。著者の流麗な筆致は、歴史的研究、考古学的調査、文学批評、聖書神学をひとつの「物語」に編み込む。

◆A5判・定価7370円

## 福音と世界

◆定価660円

### 2月号 何が「われわれ」をつくるのか

——〈共感〉をめぐる——

寄稿者…阿久澤麻里子、風巻浩、桜井智恵子、原由利子、

ジェシカ・カウムラ、渡邊さゆり／福岡揚

座談会 教会の人事とジェンダー問題

好評連載 山下壮起、C・J・サンダース&A・ヤー

バー、山崎ランサム和彦、有住航、田崎英明、山口陽一、  
勝村弘也

●以前ここで書いた引越しの件は無事に転居先が見つかったのですが、こうして引越すことになった背景には、家の狭さだけではなく大家との確執がありました。うちのマンションは一昨年売りに出されたのですが、新しい大家は所有主の権力が笠に著して入居者いばり散らした。突然断水が続いたことがあったので対応を求めても「俺の責任じゃない」と大声で威圧される始末。じつは大家の意向でマンション名も変更されたのですが、それが最近「入居者の声」により元の主義に戻ったことから、その横暴に怒った住民は他にもいたものと思われず。そして、そんな状況下でわたしに突き刺さったのが、去年話題になった映画『バーバリアン』です。心霊ものか殺人鬼ものかはたまたクリチャーのものなのか、予想を裏切る演出を繰り返す快作ですが、個人的に推したいのは俳優ジャスティン・ロングの存在感。彼はラブコメ(自身で製作・脚本・主演を担当した『ウソはホントの恋のはじまり』がおもしろい)とB級ホラー(人体実験により半人半セイウチにされてしまう『ミスター・タスク』!)、二つのキャライオを持ち合わせる人物ですが、もっとも似合うのは二枚目と三枚目の間のような軽薄なキャラクター。同作ではデトロイトで民泊を経営するオーナーとして登場、金のことしか頭になくくせに、その場しのぎで体裁だけは保ってみせる

ペラペラな人物を見事に演じています。あの大家にも、せめてジャスティン・ロングのような愛嬌があれば少しは違ったのでしょうか。いや、そんなことを考えるよりも、せつかくの引越しのことで、引越しもまつわるホラー映画でも見て気持ち高めようと思います。(堀)

●まったく動きのなかった在庫が急に動き始めることがあります。多くの場合、大学の先生が参考書に指定したり、読書会のテキストに取り上げられたりする場合ですが、最近では、影響力ある方のネット上の言及もあります。一〇年前に出したノースロップ・フライの『ダブル・ヴィジョン』が、昨年の暮れからよく動くようになりました。不思議に思っていたところ、松岡正剛さんの書評サイト「千夜千冊」第一八一一夜で取り上げられたことを販売部の担当者が教えてくれました。この稀代の大読書人の目にとまったことは光栄です(私はKindle版「千夜千冊エディション」全二六巻を携帯で文字通り携帯し、そぞろに読み進めることを愉しみにしています)。そんなわけでフライを久しぶりに再読。松岡さんの読みには及びませんが、私は、事柄に間接的にしか関われない人間が直接的な幻想に執着し、それ故に生じる悲喜劇を政治、宗教、文学などから語り、最善の間接性を愛に見てると読みました。改めて名著であること確信(訳も良い)。お勧めです。(小林)

# 福音と世界

2023年  
3

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8760円

## 特集・問いとしての人權

人權をまなびほぐす ― ケアと正義を  
むすびつけるために ― 川本隆史

人權と動物の權利 鬼頭葉子

医療と人權 「病むことの無い人格」と  
「共生」の観点から ― 杉岡良彦

人權回復のエンパワメントとしてのフェミニスト  
神学とクイア神学 ― LGBTQ+の学生の  
人權を中心に ― 薄井良子

国家と人權、この脆弱なるもの ― 原田雅樹

日本の人權思想を問う ― 災禍に迫る危機  
― 森島豊

「書評」カルヴァン『共観福音書下』……山口希生  
「好評連載」

◆フッド・スピリチュアルズ 9 ……山下壮起

◆教会におけるマイノリティ 11 サンダース、ヤルバー

◆「日本的キリスト教」を読む 14 ……山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 15 ……山崎ランサム和彦

◆間隙を思考する 非同時代性のために 24 ……田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 25 ……勝村弘也

◆霊性のエゴジリーあるいは「マリアリア」 25 村澤眞保呂

◆福音のフラグメント 26 ……有住航